

第2回総合計画審議会(交流分科会)意見及びその対応

【凡例】

○関連部分の章

章	分 類
全	計画全般
は	はじめに
1	第1章 社会経済環境の変化と横須賀の基礎的な課題
2	第2章 計画の条件
3	第3章 重点プログラム
4	第4章 まちづくり政策
5	第5章 まちづくりの推進姿勢

○対応分類の番号

No.	分 類
1	意見を踏まえ修正するもの
2	参考意見と捉え修正は要しないもの
3	既に基本計画素案に盛り込まれているもの
4	実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの
5	策定手法に関するもの
6	質問事項と捉えるもの

意 見			関連部分				対応分類	考 え 方
No.	発言者	内 容	章	大柱	中柱	小柱		
1	伊藤委員	藤沢市との人口比較について、藤沢市が社会増になっているのは、企業誘致などによるものではないのか。単に、都心への通勤利便性の問題だけなのか。	全	-	-	-	6 質問事項と捉えるもの	長期的に常に転入増であり、短期的な増がないので、一時的な企業誘致ではないと思われる。特定はできないが交通利便性によるものではないかと考えられる。
2	細野座長	藤沢市の交通条件と地価はどうか。	全	-	-	-	6 質問事項と捉えるもの	交通条件では、新宿駅までの所要時間では、15分程の格差がある。 地価については、1994年以降の本市と藤沢市の市役所最寄駅から1,000～2,000mの住宅地の公示対象地点(横須賀市2地点、藤沢市4地点が該当)を抽出し、その平均値を比較すると両市とも下落している。価格は、藤沢市が本市を上回っている。
3	土橋委員	市外に転居した子どもの転居理由について、結婚すると外に出て行く理由がよく分からない。調査の詳細はないのか。	全	-	-	-	6 質問事項と捉えるもの	もともと転出意向の調査ではなく、高齢化する郊外型団地の中で、どういう課題があるかということを中心に調査なので、これ以上の細かいところは聞いていない。
4	細野座長	結婚を機にどこに住むかの決定権などについても聞いてみると良い。	全	-	-	-	5 策定手法に関するもの	もともと転出意向の調査ではなく、高齢化する郊外型団地の中で、どういう課題があるかということを中心に調査なので、これ以上の細かいところは聞いていない。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
5	西原委員	結婚して親と別居する際、わざわざ横須賀のマンションを買って東京、横浜に通うよりは、横浜なり、東京に買うのではないか。結婚の理由と通勤通学の事情と両方の理由によるのではないか。もちろん、親世帯からの独立もある。全部絡み合っている。川崎市のマンションが急増している状況があり、横須賀からの転出もあるのではないか。	全	-	-	-	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	「1-1-4 定住を促すしかけづくり」を小柱に位置付けており、転出抑制を含めた定住促進施策を実施していく考え。
6	小野間委員	市外に転居した子どもの転居理由について、結婚する時は、どちらかという女性のほうの実家の近くに住むほうが多いと思う。あとは勤務先を考える。6割が結婚で市外に出てしまうということについては、ある程度傾向が分かるとよい。	全	-	-	-	6 質問事項と捉えるもの	もともと転出意向の調査ではなく、高齢化する郊外型団地の中で、どういう課題があるかということを中心にした調査なので、これ以上の細かいところは聞いていない。
7	永田委員	横須賀市の地域資源には、自然資源の他に工業資源もある。日産自動車の工場、NTTなどの研究開発拠点などの工業資源に子どもが興味を持ってもらえるよう小・中学校と企業との連携を促進していく必要がある。	4	1	1	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「1-1-1 地域資源を生かした魅力づくり」の小柱では、自然に限らず、産業も含めた全ての地域資源を活用して集客、定住に結び付けていくことを捉えている。
8	小野間委員	「1-1-1 地域資源を生かした魅力づくり」について、豊かな自然や歴史、生活文化など地域固有の資源を守るために自主的な活動を行っている団体と横須賀市が連携し、協働を進めることによって各団体の活動を活性化させる必要がある。	4	1	1	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	地域資源の活用は「1-1-1 地域資源を生かした魅力づくり」で捉えている。また、地域文化の掘り起こし等や担い手の育成などは、「3-4 多様な文化の継承、発展、創造」の中柱で、市民と協働したまちづくりは「推進姿勢1-3 市民協働の推進」の中柱で捉えている。
9	小野間委員	神奈川県「観光かながわグランドデザイン」における三浦半島地域の将来像「半島ならではの魅力を活かした周遊型観光の展開」「地域の資源を活かした体験型・宿泊型観光の展開」なども反映してはどうか。周辺市町と連携した周遊プランを策定すれば、一層集客につながっていくと思う。	4	1	1	1	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	「1-1-1 地域資源を生かした魅力づくり」と「1-2-1 集客につながる魅力の発信」の2つの小柱で、集客促進施策とその情報発信を考えている。提案のあった内容については実施計画策定の際の参考とする。なお、周辺市町との連携としては、三浦市、逗子市、葉山町などと「三浦半島観光連絡協議会」を組織し、イベントの実施やパンフレットの作成などを行っている。
10	伊藤委員	横須賀市は、資源自体は豊富にあるので、新たに何かをつくるよりも「1-2 交流を支える情報の発信」の方が重要になってくる。魅力ある横須賀市の資源を末端まで行き届かせるような取組みとともに、来ていただいた人におもてなしの心をどう伝えるのか、浸透させることも大変重要である。	4	1	2	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「1-2-1 集客につながる魅力の発信」の小柱で、本市の魅力やイメージアップにつながる情報をあらゆるメディアを活用して幅広く発信していく。ホスピタリティの形成については、「1-1-3 交流を支える人材や団体の発掘・支援・活用」の小柱で取り組む必要があると認識した。
11	細野座長	川崎市の工業地帯はデートスポットになるなど、注目度が高い。港湾機能には観光を取り入れて検討する必要がある。	4	1	3	4	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「1-3-4 港湾機能の強化と再編の推進」では、物流だけではなく、人流の増加も目的としており、本市の特性を活用した機能強化を行うとともに、港湾機能も地域資源と位置付けて集客促進施策に活用していく。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
12	細野座長	藤沢市のふじさわ電縁マップのようなウェブサイトですぐにアクセスできる観光マップが有効である。その際は、市民がコンテンツを作成するなど、市民が参加できる仕組みも考える必要がある。	4	1	2	1	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	「1-2 交流を支える情報の発信」では、集客を目的とした市外向けの情報だけでなく、交流推進を期待した市内向け情報の発信も想定して取り組むこととしている。実施計画策定の参考とする。
13	西原委員	横須賀市の地域資源は、海、丘、景色、観光というように素晴らしいものがあるのに、人を呼び込むための集客につながっておらずもったいない。日帰りの集客にはある程度取り組みがみられるが、宿泊観光の取組みは物足りない。人を呼び込むための駐車場や宿泊施設の不足などの課題があり、貴重な地域資源を活かせるよう、駐車・宿泊スペースを拡充する必要がある。	4	1	1	-	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	「1-1 人を呼び込む環境づくり」では、地域資源を生かした魅力づくりと魅力ある交流拠点の創出を位置付けており、集客に積極的に取り組むこととしている。
14	細野座長	駐車場や宿泊施設をネットワークで結ぶような取組みも必要である。また、環境への配慮もあるので公共交通の利用も促進する必要がある。	4	1	3	-	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	地域間連携や施設間連携、公共交通の利用促進については、「1-3 陸と海に広がる総合的なネットワークづくり」の事業実施の参考とする。
15	土橋委員	横須賀市は三浦半島の入口に位置する。観光地として入り口としてみるのか、宿泊地として出口としてみるのか、半島の中心としてだけでなくバランスよくみることで、骨子案の内容はもっと広がりが出てくる。豊富な地域資源を生かし集客を図るためには、横須賀を中心とするだけでなく、情報・交通などの面からももう少しバランスよく検討しなければならない。	4	1	1	-	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	意見を踏まえて「1-1 人を呼び込む環境づくり」及び「1-2 交流を支える情報の発信」の施策を検討する。
16	細野座長	京浜急行各駅の乗降客数の変化など具体的なデータを精査して、どこを入口・出口とするのかエリアマーケティングの戦略を検討する必要がある。	4	1	1	-	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	意見を踏まえて「1-1 人を呼び込む環境づくり」及び「1-2 交流を支える情報の発信」の施策を検討する。
17	永田委員	子どもが行きたいと言えば大人は付いてくるので、まずは子どもに受けるような観光ガイドをつくってもよい。例えば、横須賀市の成立ちや発展、将来像をわかりやすく示す資料を作成し、横須賀市と小学校で連携して教育の場で活用してもよい。	4	1	2	1	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	「1-2-1 集客につながる魅力の発信」では、さまざまな媒体を想定しており、実施事業の参考とする。 なお、既に文化関連事業として、子ども向け歴史小冊子の作製、子ども文化活動体験講座での歴史講座の実施、子どもの文化活動支援のためのHPの作成、家族でめぐる横須賀歴史さんぽなどを行っている。
18	西原委員	横須賀市は、龍馬やペリーなど歴史上の人物にゆかりのある地なので、観光だけでなく文化的資源ももっと売り出さねばならない。	4	1	2	1	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	観光ガイドや「ここココ」(HP)により、歴史的・文化的都市資源の情報も積極的に発信している。次期計画では、新規媒体の利用やコンテンツの再構築など、より効果的な情報発信を心がけ、実施事業の検討をしていく。
19	細野座長	子どもたちが横須賀市に誇りや愛着をもつことが、横須賀市から出ていくかどうかにとって重要なポイントである。	4	1	1	4	1 意見を踏まえ修正するもの	転出意向を抑制するためには、地元への「誇り」や「愛着」の醸成は重要な課題のひとつだと考えている。意見を踏まえ、「第3章 重点プログラム」などに盛り込むことを検討する。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
20	伊藤委員	JRと京浜急行がアライアンスを組んで、横須賀駅と横須賀中央駅を拠点とし、三浦半島のみならず逗子や鎌倉も入れた広域観光のキャンペーンを行えば、JRの力も借りて上手く情報発信することができるのではないか。	4	1	2	1	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	「1-1-1 地域資源を生かした魅力づくり」及び「1-2-1 集客につながる魅力の発信」の小柱で検討する。なお、今年度(H21)は、JRと協力して、YY(ワイワイ)スカ線フェスタを実施している。
21	小野間委員	現行計画の「推進姿勢1-1-1 情報公開・情報提供の充実」という小柱から骨子案では「情報提供」という用語がなくなっているが、情報公開とは別に積極的に情報を出していくという方向性を打ち出すために、「情報提供」という言葉は残しておいた方がよい。「推進姿勢1-2 広報広聴活動の充実」の中で、新たな小柱「推進姿勢1-2-1 広報活動の充実」を立てているが、「推進姿勢1-1-1 情報公開・個人情報保護の充実」の方に「各分野の情報を積極的に提供します」という説明が入っているのだからにくなっている。	5	1	1	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	情報提供は積極的に行っていく。ご指摘の点については施策の詳細の作成時にわかりやすく書き込む。
22	小野間委員	「推進姿勢1-2-2 広聴活動の充実」についても市民参加という意味では、政策立案・事業の実施における提案など政策提案のスタンスを前面に出したほうがよい。	5	1	2	2	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	政策の企画や事業の市民提案については、「推進姿勢1-3-2 協働による取組みの推進」で捉えている。事業としては、企画提案型市民協働モデル事業を実施している。
23	土橋委員	「推進姿勢1 市民協働によるまちづくり」について、市民に何を求めているのか、また、市民と企業をどのようにまちづくりに協働してもらおうとしているのかわかりにくい。	5	1	-	-	6 質問事項と捉えるもの	「まちづくり」とはハードだけでなくソフトも含めた市政全般を捉えている。したがって、「推進姿勢1 市民協働によるまちづくり」とは、ルールづくりなどの際にも市民と協働して考えていく姿勢を示している。
24	細野座長	市民に賢く判断してもらうための基礎情報の提供と、市の考え方のPRという2つがあり、客観的なものと意図的なものとに分けて捉える必要があるが、解説部分で書いておけばよい。	5	1	-	-	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「推進姿勢1-1 情報公開・個人情報保護の充実」と「推進姿勢1-2 広報広聴活動の充実」の二つの中柱に位置付ける小柱の中で、客観的な基礎情報の提供は情報公開の施策として、また、市の考え方のPRは広報活動の施策として検討する。
25	永田委員	横須賀市がPRしたいこと、あるいは横須賀市が他と協働してPRしたいことを、例えばバナー広告のような形で掲載するような機能を新たに追加してはどうか。市内外両方を含めて情報提供だと思ふ。	5	1	2	1	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	小柱に「推進姿勢1-2-1 広報活動の充実」を位置づけており、広報活動は常に適切な、市内外の全ての人にわかりやすい形で行うべきだと考えている。
26	西原委員	広報活動について、紙以外のインターネットや電波による広報は、市外にも伝わるのでよい。広報活動の範囲を広げるのは大事なことだと思う。	5	1	2	1	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	小柱に「推進姿勢1-2-1 広報活動の充実」を位置づけており、広報活動は常に適切な、市内外の全ての人にわかりやすい形で行うべきだと考えている。
27	西原委員	遍く市民が見ることができるのは紙であり、保存ができるものでなければならず、現在の各世帯に配付している広報紙は是非とも継続してほしい。	5	1	2	1	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	小柱に「推進姿勢1-2-1 広報活動の充実」を位置づけており、広報活動は常に適切な、市内外の全ての人にわかりやすい形で行うべきだと考えている。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
28	土橋委員	「推進姿勢1-3-1 市民公益活動の促進」で書かれている「自らの創意を生かしながら地域のまちづくり活動を進める」ためにも、市民にとって、まちづくりのイメージが湧くような取組みを記述に加えた方がよいように思う。	5	1	3	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	具体的な取組みがイメージできるように、施策の詳細の作成時に書き込む。
29	西原委員	観光や農業なども三浦市に呼びかけて一体的に取り組まなければならない。	4	1	1	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「1-1-1 地域資源を生かした魅力づくり」の小柱で他市との連携も視野に入れており、周辺市町との連携としては現在も、三浦市、逗子市、葉山町などと「三浦半島観光連絡協議会」を組織し、イベントの実施やパンフレットの作成などを行っている。
30	小野間委員	横須賀市は三浦半島の中心であり、半島全体を牽引する存在になってもらいたい。	全	-	-	-	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	-
31	伊藤委員	横須賀は、海軍カレー、ヨコスカネイビーバーガーなど、外からみると有名な地域資源があるが、中の住民は意外と気付いていない。また、隠れた名品があるかもしれないので、横須賀市だけの物産展を市民を対象にアンケートしてはどうか。市だけのベストを実施するなど広報活動を充実してほしい。	4	1	2	1	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	「1-2 交流を支える情報の発信」では、集客を目的とした市外向けの情報だけでなく、交流推進を期待した市内向け情報の発信も想定して取り組むこととしている。実施計画策定の参考とする。
32	細野座長	基地との連携も少し考えてもらいたい。横須賀市のフレンドシップデーなどがあり、10万人単位で来客があり、基地内でピザの販売などが行われていることもホームページに掲載すれば面白いのではないか。	4	1	2	1	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	基地でのイベント情報等は、「ここココ」(HP)などで紹介しており、次期計画でも継承する予定。基地との連携については、「集客につながる魅力の発信」の小柱で検討する。
33	永田委員	市政を支える意欲と能力のある人は、横須賀市に愛着を持った人のことだと思うが、人材育成の課題にどのように長期的な計画を立てて取り組んでいくのかも盛り込めるとよい。	5	2	2	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「推進姿勢2-2-1 市政を支える意欲と能力のあるひとづくり」の小柱は市職員を対象としたものであり、長期的な人材育成も捉えている。
34	土橋委員	市民の中に市職員が入っていく政策の明確化によって、例えば、寝たきり老人への情報伝達方法の問題などが見えてきて、それによって効率的で機動的な行政運営ができてくる。	5	2	1	2	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	情報伝達の問題に限らず、職員が現場をよく見るという姿勢は、すべての施策において重要なことなので、「推進姿勢2-2-1 市政を支える意欲と能力のあるひとづくり」の中で職員の意識を高めることを検討する。
35	土橋委員	もう少しわかりやすい書き方をしてくれると、市民にも行政に協力しやすくなる。そもそも情報システムという言葉が何を意味しているのかわかりにくい。また、「市民満足度を向上するため」といっても、他人行儀で堅い印象を受ける。	5	2	1	2	5 策定手法に関するもの	計画全体について、最終的になるべく分かりやすい言葉を用いるようにする。 なお、ここでの「情報システム」は行政運営の効率化に資する情報システムを指しており、具体的には「庁内LAN」の活用などを想定している。市内外への情報発信は「1-2 交流を支える情報の発信」の下の二つの小柱で捉えている。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
36	西原委員	「推進姿勢2-2-1 市政を支える意欲と能力のある人づくり」の小柱では、本庁職員や出先機関の職員が市政を支えているとしている。しかし、その他に無報酬のボランティアで活動をしている町内会等の各団体も末端の市政を支えている。むしろ、市民に情報伝達し、市民の意見を集約しているのは市の職員だけでなく、そうした団体である。町内会の役員などを任せられる人探しにどこも非常に苦労している。そういった視点が書き足りない。	5	2	2	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「推進姿勢2-2-1 市政を支える意欲と能力のあるひとづくり」の小柱は市職員を対象としたものであり、地縁団体やテーマコミュニティへの支援は「4-5-1 コミュニティへの支援」で捉えている。ここでは、活動が活発に行われるための様々な支援を想定しており、人材に関する支援も含まれている。
37	細野座長	市の組織には縦割りの弊害がある。そのため、皆で問題を共有し、民でできることは民でやらせてもらうことで効率的な行政運営を可能とする。そこに情報システムを使うという流れとして整理できる。	5	2	1	2	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	ご指摘のとおり、「推進姿勢2-1-2 情報システムによる行政の効率化」では、庁内LANを活用した情報共有などによる行政の効率化を捉えている。 また、民でできることは民でという考え方は「推進姿勢1-3-2 協働による取組みの推進」で捉えている。
38	小野間委員	「推進姿勢2-2-1 市政を支える意欲と能力のある人づくり」について、市職員だけであればよいが、NPOなど市民の人材育成も含むとすれば、それは8頁の「推進姿勢1-3-1 市民公益活動の促進」のところに入っていればよい。	5	1	3	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	ご指摘のとおりNPOなど市民公益活動への支援は、「推進姿勢1-3-1 市民公益活動の促進」で捉えている。
39	小野間委員	「推進姿勢2-2-1 市政を支える意欲と能力のある人づくり」に「個々の職員が政策課題に対する問題意識を持つと同時に」とあるが、問題意識を持つと同時に、それをくみ上げて解決する能力が重要だと思うので、そこまで目標的に書き込んでほしい。	5	2	2	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	問題意識だけでなく、くみ上げることや、解決能力も重要なので、施策の詳細の作成時に書き込む。
40	細野座長	関東学院大学と追浜商盛会のコラボレーションなど大学と地域との連携を支えることで、活動に誇りを持つことができ、成功が成功を呼べるのではないか。	5	1	3	2	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	このような取組みは「市民協働」と捉えることもできるが、商店街などの様々な取組みへの支援は「2-5-2 魅力ある商業集積の促進」で捉えている。追浜での取組みに対しても空き店舗対策の補助を行っている。